

委員会名	2024年度第1回 生産技術委員会
開催日時	2024年5月9日 16:00-17:15
開催場所	JOGMEC 会議室(Zoom ハイブリッド開催)
出席者 (敬称略)	(現地)山崎副委員長、久々宇、矢島、桐山、知識、大内、村上、根本、谷口、中島 (オンライン)小林、村田、上野、舟橋、阿部、飯野、城戸、中田、荒木、村井、上谷
議事	<p>1. 事務報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 委員の交替 <ul style="list-style-type: none"> <li>・早稲田大学古井先生が生産技術委員から退任し、大内先生が後任となった。</li> <li>・出光興産多田委員が生産技術委員から退任し、城戸委員、巳波委員が後任となった。</li> <li>・コスモエネルギー開発宮田委員が退任。(後任は無し)</li> </ul> </li> <li>● 6月から幹事会社交替(JAPEX→JX)につき、新任の方(村上様・根本様)よりご挨拶</li> </ul> <p>2. 幹事会報告</p> <p>知識委員より幹事会議事概要(第89期1回)が報告された。</p> <p>議題1. 第88期第12回幹事会議事録(確認事項)</p> <p>議事録を確認し、了承された。</p> <p>議題2. 会員の異動 (令和6年3月1日~3月31日)</p> <p>入会: 正会員 5名 学生会員 6名 退会: 特別会員 3名、正会員 23名、学生会員 1名、賛助会員 1名 総数は先月から-18名で、1,671人となった。</p> <p>会則第11条(除名)の規定に基づき、会費5年滞納者は、特別会員1名、正会員10名、学生会員8名の合計19名である。4年滞納者については、正会員18名、学生会員10名の合計28名となる。昨年度は、滞納者への声かけにより回収促進を行ったため滞納者の除名は保留されている。今回、再度声かけにより納付を促した後に、滞納のままの場合は除名することとする。</p> <p>各社へ会社持ちを促して滞納を減らす等、各社の幹事を中心に取り組みを進めている。</p> <p>本年度の特別会員推薦候補者26名。本年度の名誉会員推薦候補者6名。</p> <p>議題3. 令和5年度3月次決算(令和6年3月)</p> <p>3月末収支実績では、最終的に1,190千円程度マイナスとなった。3月末現在の累計収支実績はおおよそ2,597千円の黒字となっている。</p> <p>今期黒字となったのは春季講演会が地方開催で補助金が得られたためとなる。地方大会が黒字になったことが要因。</p> <p>議題4. 令和6年度予算(案)</p> <p>過年度滞納分は110万円残っており回収が必要。各社で滞納者への催促を依頼。会員を増やすことが重要課題。石鉱連からの事務局員の人件費が削減され予算を圧迫している。業務効率化を図りたい。</p> <p>議題5. 定時総会議案書(案)</p> <p>法人化については前回の理事会で拙速との指摘があり、令和6年度中の法人化実施については見送ることとし、法人化について検討期間を取り、その必要性、準備すべき必要書類の確認と整備、会員の意見等についてヒアリングを行う。検討の結果により法人化すべきと判断された場合は、令和7年度の総会に諮り、最終承認を得ることと目指したい。従って「第5号議案 法人化に向けた検討チームの設</p>

置について」は削除。報告事項として「法人化に向けた検討について」を報告することとする（検討チームを組成する案を理事会で承認してもらい総会でチームを作ることを報告する）。

議題 6.年会費納付についてのお願い 会告（案）  
特にコメント等なし。

議題 7. 第 89 回総会・90 周年記念事業について

業界・企業紹介セッション/学生相談ブース展示（リコチャレ関連）につき事務局からプランが提示された。各社の人事担当者と近々に連絡を取って協議を詰めることとした。

今期は会場・オンライン参加費は同額とする。

記念出版用に 166 の論文を抽出、これから選別作業に移行する。約 6 カ月かかる見込み。出版物は、年 6 回定期発刊誌と区別し特別号として有償頒布する。発刊時期は令和 6 年度中とし、本年 6 月 3 日の 90 周年記念式典にて特集号の概要・目次を紹介する。

その他

・業務効率化

学会データをセキュリティ担保したクラウド上に載せ、データアクセス権を幹事・各委員会役職者へデータ共有により問合業務の削減による業務の効率化を図る。NTT 東日本のクラウドドライブアクセスへのアクセスにつき、各社確認、産総研以外での接続が可能であることを確認した。よって、今後対象として考える段階で有力候補の一つとして保留する。

・会誌編集委員会の課題

会誌編集委員会副委員長より説明。編集委員会の運営幹事代表等が社内異動により後任が必要だが、3 つのポジションに 2 名の候補者しかいない。委員の構成メンバーに偏りがあり、各社からより広く協力を要請する。後任が途絶えている会社には後任を出してほしい旨の説明が為された。業務内容と適正人材について議論された。

（矢島）データのクラウド保存については運営幹事もアクセスでき、引継ぎなどの庶務も円滑にできるということか。

（知識）アクセスできる方は委員会の役職者に対してはアクセス権を付与する形を想定しており、運営幹事を含めることも検討している。

### 3. 理事会報告

#### ● 理事会について

矢島委員より第 88 期第 1 回理事会議事概要が代読された。

#### 令和 5 年度決算報告

予算で約 85 万円黒字のところ、実績では約 344 万円の黒字。春季講演会の地方開催による補助金が大きく寄与している。

#### 事業計画

第 3 号議案 令和 6 年度事業計画および予算（案）について

・6 月 3 日～5 日：総会・記念講演・祝賀会・春季講演会を東京大学本郷キャンパス 伊藤国際学術研究センター、山上会館 2 階大会議室、理学部小柴ホール、工学部 3 号研 4 階大会議室で開催予定。

この中で、学生向けのリコチャレ要素を入れた学生向けセッション・ブース相談会を開催する。

・6 月 6 日：見学会を開催。

- ・10月下旬～11月上旬：秋季講演会開催予定@理学部小柴ホール（予定）
- ・記念事業：ワーキンググループ（設置済み）により CCS 論文の既存・記事について調査完了。今後は新規論文・記事を合わせて令和6年度中に記念出版として取りまとめ、「CCS 特集号(仮名)」を発刊する。
- ・法人化検討チームを4月理事会にて承認を得た上で設置し、同検討チームを中心に法人化する場合のメリット/デメリット、法人化する場合の体制等を検討し、会員からの意見も聴取した上で、次年度総会で法人化の是非を諮ることとする。

#### 法人化計画

本年3月13日に開催した第6回幹事会においては当協会の法人化の必要性について同意を得た。ただし、当協会として法人化を決定するには、具体的な検討にさらに十分な時間とリソースを掛ける必要があり、また、会員の意向を確認する時間も必要であることから、本年度の総会には法人化議案を上程しないこととした。本年度は理事会承認を得た上で法人化検討チームを設置し、同チーム内で諸事項（暫定案を下掲）の検討を行い、会員にヒアリングを行う。その結果、法人化が適切と判断された場合は、令和7年度の総会で法人化の承認を求めることとする。なお、検討の途中経過については、幹事会、理事会に報告する。

#### ● 第3回 90周年記念出版物ワーキンググループ会合報告

村上委員より第3回 90周年記念出版物ワーキンググループ会合の報告がなされた

1. 過去に石油技術協会誌に掲載した CCS 関連の論文・報告等の検索・整理の結果
  - ・東大小林先生の研究室で学ぶ院生に依頼していた作業が予定通り終了。
  - ・結果は、エクセル表に一覧が纏められている他、原論文 165 編は PDF で保管。165 から 30 から 40 編ほど選定し、数百ページのものを編纂するイメージ

#### 2. ワーキンググループメンバー

- ・会長、副会長 2 名、事務局長
- ・探鉱・生産・作井・CCS・HSE 委員会につき、それぞれ委員長+1 を目安
- ・CCS に見識があり、通読をお願いできる方にワーキンググループ参加をお願いする。

増田昌敬（ますだよしひろ） 東大名誉教授が全体統括を図る

#### 3. 今後の作業

各委員会からのメンバーにより、それぞれの専門分野の論文から特集号に掲載する候補を絞り込む。

[過去分の選考の際の考え方の例]

##### ①最近のもの vs 当協会における技術発展の歴史

CCS については CO<sub>2</sub>-EOR から派生、ブラッシュアップした案件が CCS につながるという認識であり、EOR も重要な内容であるというグループ内での認識。

##### ②分野別のバランスは下記の通り。

165 編中

開発 73 編、作井 10 編、施設 9 編、探鉱 28 編、法制 4 編、その他 41 編

過去の論文はそのまま含めることを想定している。ただし、先進的 CCS に関するものなど、最新情報がアップデートされているものについては内容を修正した上での掲載を計画している。

##### ③テーマによって他のリソースを当てるか

☆ 新規執筆論文の分野と執筆候補者も選定する。

記念講演の 3 氏には新規論文の執筆をお願いできると思われる。

エネ庁

佐伯徳彦氏

CCS の法的側面

京大名誉教授 松岡俊文氏 CCS 技術分野  
エネ研 久谷 一朗氏 国際エネルギー

(村上) : 章立てについては小寺会長・増田先生両名で考えて、GW明けに第一報を共有いただく予定。

(中島) : 有償とのことだがいくらぐらいか。

(村上) : 未定である。

#### 4. 2024年春季講演会について

##### ● 個人講演について

久々宇委員より、個人講演での座長就任依頼、及び、優秀発表賞の評価採点方法についての説明がなされた。

・口頭発表の計8セッションの座長を決定した。(当日の対応詳細については別途連絡予定)

・評価方法に関して、1人5票持ち、口頭発表及びポスター発表それぞれから1票以上学生優秀発表賞候補に投じる方式にて了承された。

・1つの会場に票が偏らないように、2つの会場を半々程度での聴講するよう依頼がなされた。

・発表資料やポスターは事前に委員に共有できるように事務局と調整する。

(大内) : 自分の学生への投票は問題ないか。

(久々宇) : 大学・企業を問わず、委員は所属している組織への投票は控えていただきたい。

(矢島) : 先生方へのご連絡として、学生優秀発表賞の表彰が昼休みになってしまうことから、学生と直ぐ連絡が出来るようにしていただけるとありがたい。

(久々宇) : 昨年度は賞状は知識委員に名前を書いていたが今年はどうするべきか。

(知識) : 今年度は都合により現地参加がかなわない。印刷または後日送付の対応がよいと考える。

(谷口) : 投票はいつまでに行えばよいか。

(桐山) : 投票は集計と表彰の都合上、個人講演の翌日朝9時までをお願いしたい。評価シートは後日配布する。

(矢島) : 投票の参考として発表資料については委員内で共有できるようになれば、共有したい。

(谷口) : 座長は質問の準備を図る必要があるか。

(矢島) : その準備も含めて発表資料の共有が出来れば、と考えている。

(村上) : 同じ研究室同士の学生が発表時刻として被ってしまうことは無いか。

(久々宇) : 同じ研究室では無いが、どうしても両会場とも学生の発表になることは避けられなかった。一応会場1は企業の方が多めに振り分けられており、会場2は学生の方を多めに振り分けている。

(大内) : 投票に関して採点する発表については自身で選択するという事か。委員ごとに投票のために会場が指定されることはないか。

(久々宇) : 特に指定はしない。委員の聞きたいトピックスを聞いていただければよい。

(桐山) : 全て学生に投票するのではなく、少なくとも2票は学生(口答・ポスター)に振り分けていただき、残りの3票は企業の発表も含めて投票いただきたい。

(村井) オンラインでの発表時の経験談になるが、発表者が時間になっても発表

の対応が出来ず、後回しにして対応したり、オンラインでの画面投影に時間を要したりするトラブルがあった。それを受けて、今回発表者が接続テストを行う機会はあるのか。

(久々宇) 個人講演は実参加のみ。事務局から PC を借りて、発表資料を格納する。また PC の操作は発表者と運営幹事にて対応することを想定しているので接続や投影のトラブルは例年より少ないと思料。

● シンポジウム講演の準備状況について

山崎副委員長より、シンポジウムの準備状況、及びディスカッション内容について報告がなされた。

・パネルディスカッションでの議論する内容として、講演者の方と下記を議題とすることで調整の上、パネリスト各位から事前に想定回答も受領済み。5 月末にパネリスト同士の顔合わせを実施予定。

1. E&P から CN 技術へのトランジション
2. 新たな CN 人材の確保 (含む、大学等で教育)
3. 地元理解 (社会受容性の確保)

・事務局から備品・現地下見等の情報が出てきており、下見の実施などロジについて検討開始。

(知識) : 下見をして、机やマイクの配置、質問をオンラインにどうのせるか等は確認しておくことを推奨する。

(小林) : 私がオンライン配信に関する庶務を担当する予定だが、マイク等の会場設備に大きな支障はないと思われる。

全体を通してディスカッション

(桐山) : アンケートに関する対応をどうするか今一度確認したい。

(久々宇) : 個人講演はアンケートフォームの QR コードを生成し、休憩中およびポスター発表のコアタイム中に画面に投影しておいた。その対応を今年度も予定している。

(山崎) : シンポジウムでも同様の対応を予定。

(知識) : アンケートの回答率を上げるために、会場内で適宜アナウンスするのが効果的である。

5. 次年度の委員会開催日・場所について

矢島委員より次回の委員会予定について報告された。

	2024 予定		2023
第 1 回	5 月 9 日 (木)	JOGMEC (ハイブリッド)	JOGMEC (ハイブリッド)
第 2 回	7 月 4 日 (木)	INPEX	INPEX (ハイブリッド)
第 3 回	9 月 5 日 (木)	JX	JX (ハイブリッド)
第 4 回	11 月 1 日 (金)	東北大学	九州大学 (ハイブリッド)
第 5 回	12 月 6 日 (金)	秋田大学	京都大学 (ハイブリッド)
第 6 回	1 月 9 日 (木)	JOE	出光 (ハイブリッド)
第 7 回	3 月 6 日 (木)	JAPEX	JAPEX (ハイブリッド)

以上